

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4071200440
法人名	医療法人 政裕会 ときつ医院
事業所名	グループホーム 楽居
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市西区内浜 2 - 6 - 7 - 301 (電話) 092 - 882 - 3321

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価確定日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 1 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	20 人	常勤	4 人, 非常勤 16人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	5 階建ての	3 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	500,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	500,000円	有りの場合 償却の有無	預かり保証金	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月 30,000 円			

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	0 名	要介護 2	0 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	6 名	要支援 2			
年齢	平均 85.2 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ときつ医院・白十字病院・たなか歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表者等が親族の介護の為に安心して暮らせる施設を作り最期まで対応したいとの思いで立ち上げた。ホームは、1階にクエックがあり24時間体制で連携が取れ主治医は毎日のように利用者の様子を診にホームを訪れている。ホームで生活している利用者は徐々に状態が変化し要介護度が高く重度化している。その中で管理者、職員は利用者の出来る力を活かし自分でできる事の喜びを感じられるよう日々実践しており、利用者の表情は明るくホーム全体が家族のように支え合いながら生活している様子が窺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題は8項目あったが、管理者、職員で会議を開き話し合い出来ることから改善を行っている。理念に於いては、現在検討中で地域との関わりを深めている過程でわかりやすい言葉を考案している。その他の項目に於いても取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価項目を職員其々に分担した形で書き込んでもらいそれを管理者がまとめた。まとめた自己評価は回覧し職員は確認している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>自治会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人代表、利用者の家族等が出席し、ホームの現状や活動報告を行い、家族より意見や質問を聞き取りホームのサービス向上等に繋がるように取り組んでいるが、定期的な開催がされていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>面会時や電話にて意見等を聞き取っているが、利用者によっては家族が書き込む連絡帳にて要望等を確認している。また、職員等も面会時には必ず声をかけ意見、要望等表出できる雰囲気を作っている。意見、要望等へはホームで話し合い対応している。また、ホームや公的機関の相談、苦情受付窓口を明らかにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し地域の活動の情報を収集し町内パトロールや定例会、花壇作り等に参加している。また、校区の防災訓練にも参加しており徐々に地域との関わりが増えている。ホームと併設のデイサービス合同の敬老祭にボランティアや学生の来訪もありホームを知ってもらえつつある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	法人代表者が開設当初に作った理念をホームも理念としている。理念は利用者の尊厳や、最期まで安心して暮らすこと等の意味が込められており解りやすいが、地域との関わりや役割等が表記されていない。		開設者の思いが表された理念であるが、その理念は法人全体の理念である為、ホームとして地域との関わり方を表す理念を現在検討中である。管理者、職員で話し合いを行い全員で作り上げることが期待する。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2ヶ月に1回のミーティングで理念について話し合い、勉強会でも意見を出し合い理念に沿ってケアを行っているか確認している。		
2.地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内パトロールや定例会、町内花壇作り等に参加し、ホームの存在を知ってもらう機会を作っている。また、中学生の福祉体験学習の受け入れやホームと併設のデイサービス合同の敬老祭にボランティアが来訪する等徐々に地域との関わりが増えている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目を職員で分担し確認記入し、管理者がまとめている。外部評価の結果は会議に於いて報告し出来ることから改善しているが、計画的な取り組みとなっていない。		外部評価の結果を話し合っているが、改善計画シートの作成が無く、取り組みの確認がわかりづらい。改善計画シートを作成し活用することで具体的な取り組みができるのではないだろうか。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に2回開催し、地域の方々と顔見知りになり情報収集ができるようになり、家族からの意見や質問等も聞き取る機会が出来ているが、出席者の都合を考慮するあまり開催回数が少なく、運営推進会議を十分に活かすことができていない。		ホームの現状や地域の活動を知りえる為に、運営推進会議を活用することが必要と思われる。出席者の予定等計画できるようホームから日程を年間計画に入れ込み早めに伝えてはどうだろうか。定期的に開催することで、より一層ホームの質の向上に繋がることを期待する。

グループホーム 楽居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへ講演を依頼し職員の勉強会を開く等関わりはあるが、その他で市の担当者と連携を取ることは現在は少ない。		ホームの便り等を持参し、ホームの現状やその他情報交換する機会を作り連携を図ることが望まれる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを準備し、全職員を対象に成年後見制度の研修を行い周知を図っている。必要な人へは説明を行っている。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に口頭にて近況を報告し、状態の変化に応じ電話にて報告をしている。また、季節ごとに通信を発行し家族へ送付している。金銭管理は金銭出納帳を家族に提示し確認、サインをもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に管理者、職員は必ず声をかけ、意見や要望を聴き取っている。また、利用者家族との連絡帳を用い希望等を把握しやすくしている。意見、要望等は管理者、職員で話し合い対応をしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は極力少なくしており、利用者と馴染みの関係が続くよう配慮している。離職の場合は、職員同士で引継ぎを行っている。異動、離職の報告は事後だが行い、新人職員は必ず紹介している。		

グループホーム 楽居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に関して年齢やその他の条件は無い。職員の特技や、趣味を活かし業務を遂行できるよう配慮している。また、公休日等希望を取りやすくシフト調整している。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	地域包括支援センターより講演してもらい、言葉使い等の研修を実施した。また、デイサービスと合同で接遇に関する研修会を開く等勉強の機会を作っている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	併設のデイサービスと合同で月に1回勉強会を開きその時々課題に対し研修を行っている。外部研修に関しては管理者から職員へ案内し研修に参加できるようにしており、研修レポートにて伝達をしている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に加入し機会があれば、参加しているが、職員同士が交流を図る機会は殆ど無い。		グループホーム協議会に加入を活用し他のホームとの交流を図り、職員も交えた勉強会や相互訪問を実施し更なるホームの質の向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が見学し体験利用は日帰り泊まりと利用者に合わせて受け入れている。その際に利用者の情報を収集し本人と顔見知りになるよう工夫をしている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者から昔の歌や方言を教えてもらい、職員も一緒に歌ったり方言で話すことで気持ちが通じ合うことがある。また、利用者が職員の表情を見て気遣い心配してくることもあり家族のように寄り添い支えあう関係である。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは会話をする中で、思いや意向を把握している。また、表情や言動からも把握し、申し送りノート等にも記入し確認をしている。また、家族からの情報収集も行っている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族から意向や希望を聞き取り、本人の表情からも情報収集をしているが、計画は生活する上での計画では無く医療面の処置等に重点が置かれている。担当者会議は職員間で開かれており、本人、家族、主治医の意見等表記されていない。短期目標の期間も記されていない。		本人、家族の意向や思いを把握している為、本人の生活に着目した計画を作成し、目標の期間を明記することが必要と思われる。また、担当者会議の記録に家族や主治医の意見等表記し関係者全員で作られた計画であることを確認できるものにすることが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは1ヶ月に1回行っており、職員の気付きと本人の状態に合わせた見直しと3ヶ月に1回の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は状態の確認と共に洗濯物を取りに行き本人を見舞う。また、家族がホームに宿泊希望の場合は受け入れている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の希望があればその主治医と連携を取っている。協力医は、随時様子の観察の為に来訪し24時間体制で利用者の状態の変化に対応している。協力医院の看護師により1週間に1回はバイタルチェックを行っている。他科受診への付き添いもホームで行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針、指針を契約時に説明し、家族同意書を交わしている。利用者の状態に合わせて話し合いを行い、全員で方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の人格を尊重し関わっており、個人記録は書庫に保管している。事務所に利用者の写真と状態等が記されたボードがあったり、便りに利用者の写真の掲載があるが本人、家族と同意書は交わしていない。		ホワイトボードに利用者の写真と状態の掲示、便りに利用者の写真掲載がある為、ホワイトボードには目隠しをすることが望まれる。個人情報を使用する同意書に加え写真使用に関する同意書も交わし、個人情報保護の遵守を徹底していただきたい。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、本人のペースに合わせたケアを行っている。本人の希望やその日の体調にてゆっくり過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階の厨房にて食事が作られ、利用者其々の状態に合わせた食事形態で提供している。食事の時間は利用者と職員と一緒に摂りやかな時間を作っている。利用者の状態が重度化しておりできる事も限られているが、後片付けの食器拭き等職員と一緒にやっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間の設定は設けておらず、本人の希望する時間に入浴している。入浴を嫌がる人には、清拭したり声かけにより出来る限り入浴するよう工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態が重度化しており出来る力等限られているが、腰掛けたままできる食器拭きやタオルたたみ等職員と共にやっている。気分転換の音楽鑑賞や誕生会、季節毎の行事にて楽しんでもらうよう工夫をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り戸外に出る取り組みを行っているが、日常的にはホーム内で過ごすことが多い。併設のデイサービスに立ち寄りたり外気浴が出来るよう心がけている。		利用者が重度化しており 外出の機会の確保は難しくなっているが、近隣や公園等に寸時の散歩の時間を取る工夫を行い、利用者が外出する楽しみが持てるよう取り組みを希望する。
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており 鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベータの昇降口が玄関になっており安全確認の上出入りは自由である。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の夜間想定を含めた訓練を実施している。校区の防災訓練に参加し、地域の方にホームを知ってもらい取り組みを行っている。今後運営推進会議等にて地域の方々の協力体制の強化を図る予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を立てカロリーや栄養バランスを考慮している。食事摂取記録は利用者全員取っており、水分摂取に関しては必要に応じチェックしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は家庭的な雰囲気があり、畳のスペースやソファで寛げるようになっている。現在は車椅子利用の利用者が多いが車椅子でも不便の無いようにホールやリビングはすっきり整理されている。壁面には絵画が飾られ絵を楽しむことができる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者其々の好みの置物や季節の飾りがあり居心地よく過ごす工夫がされている。2人部屋になっている為、プライバシーの確保に配慮し、ケアを行っている。		